

- ◆司馬遼太郎が語る〈第五集・第六集〉(司馬遼太郎)
- ◆写真の歴史入門 第4部「混沌」現代、そして未来へ  
(中野浩美)
- ◆地球巡礼(野町和嘉)
- ◆アラン・デュカス 進化するシェフの饗宴  
(ハナブサ・リュウ)
- ◆間違いだらけのアトピー治療(竹原和彦)
- ◆人は見た目が9割(竹内一郎)
- ◆明治大正翻訳ワンダーランド(鴻巣友季子)
- ◆図書館を使い倒す!(千野信浩)
- ◆「三島由紀夫」とはなにものだったのか(橋本治)
- ◆コールドゲーム(荻原浩)
- ◆しをんのしおり(三浦しをん)
- ◆またたび(さくらももこ)
- ◆黄色い目の魚(佐藤多佳子)
- ◆化粧〈上・下〉(渡辺淳一)
- ◆裁判官が日本を滅ぼす(門田隆将)
- ◆四国はどこまで入れ換え可能か(佐藤雅彦)
- ◆釈迦(瀬戸内寂聴)
- ◆新宿熱風どかどか団(椎名誠)
- ◆図解さかな料理指南(本山賢司)
- ◆太鼓たたいて笛ふいて(井上ひさし)
- ◆馬鹿な男ほど愛おしい(田口ランディ)
- ◆明治・大正・昭和華族事件録(千田実)
- ◆不肖・宮嶋ちよつと戦争ボケ〈上・下〉(宮嶋茂樹)
- ◆司馬遼太郎が考えたこと12(司馬遼太郎)
- ◆津山三十人殺し(筑波昭)
- ◆皇帝の血脈〈上・下〉(アラン・フォルサム)
- ◆サイレント・ゲーム〈上・下〉  
(リチャード・ノース・パターソン)

- ◆名声のレシピ(シャロン・クラム)
- ◆山崎豊子全集 22(山崎豊子)
- ◆辻邦生全集 17(辻邦生)
- ◆阿川弘之全集第三巻(阿川弘之)
- ◆香田証生さんはなぜ殺されたのか(下川裕治)
- ◆淳それから(土師守 本田信一)
- ◆鈴井貴之編集長 大泉洋(Office CUE)
- ◆話を聞く技術(永江朗)
- ◆憤青(沙袖)
- ◆きみの友だち(重松清)
- ◆恋いせども、愛せども(唯川恵)
- ◆ドン・キホーテ 前篇〈上・下〉(セルバンデス)
- ◆ドン・キホーテ 後篇〈上・下〉(セルバンデス)
- ◆HOKKAI(高樹のぶ子)
- ◆かんじき飛脚(山本一力)
- ◆王城の忍者(南原幹雄)
- ◆新リア王〈上・下〉(高村薫)
- ◆千住家にストラディヴァリウスが来た日(千住文子)
- ◆日本を再生するマグネット国家論(黒岩祐治)
- ◆木の匙(三谷龍二)
- ◆最後の注文(グレアム・スウィフト)
- ◆nakata.net 04-05ドイツW杯への道~(中田英寿)
- ◆闇夜の国から二人で船を出す(小池真理子)
- ◆朝青龍はなぜ負けないのか(松田忠徳)
- ◆天才監督木下恵介(長部日出雄)
- ◆東京少年(小林信彦)
- ◆コンシェルジュ 4(藤栄道彦)
- ◆ブレイブ・ストーリー 新説 9(小野洋一郎)
- ◆日本国大統領桜坂満太郎 11(日高義樹)
- ◆山下タローくん 4(こせきこうじ)

## 角館高校の紹介

### 角高の俊英たち

去る10月28日、本年度文化功労賞受賞者が発表されました。褒賞にはたくさんの種類があるので、どの受賞がどれほどの誉れに値するかわかりにくいですが、文化功労賞には特別の意味があります。本年度の文化功労賞に角館高校の同窓生である高階修爾先生が受賞されました。角館高校では10月7日、学校創立80周年記念行事を行いました。記念行事として高階先生から「西洋の眼 日本の眼」という演題でご講演をいただきました。先生は西洋美術の研究家・評論家として日本の第一人者であり、「近代美術の巨匠たち」「ルネッサンスの光と闇」「日本近代美術史論」「ルーブル美術館」など著作や監修した書籍がたくさんありますが、高校の国語の教科書にも先生の評論が掲載されております。



高階氏



柳葉氏

角館高校の同窓生には、高階先生のように驚くほど著名な活躍をなさっている方々が他にもたくさんおられます。判事や弁護士など法曹界で活躍している方、大学や研究機関など学術的・教育的分野で活躍している方、県議会や地方自治体の長など政界で活躍している方、また、芸術・芸能関係で活躍なさっている方々もたくさんおられます。創立80周年記念行事では、柳葉敏郎氏による「トーク&コンサート」を実施しましたが、柳葉氏は本年度の日本映画界ではトップの活躍をしているといわれています。柳葉氏とお会いして、正しく正真正銘、裏も表もないあるがままの威風堂々とした角高生を見ることができました。奢ることもなく、萎縮する必要もなく、やるべき事、ただやりたい事を真っ直ぐやり通す。それが角高生気質であることを改めて感じました。